

交流

会報第6号
2001年10月

発行責任者

ブルン敦賀和子
フリッチ長谷川雅子
カイザー青木睦子
モジマン中西生子

教科書について考える

はじめに

会員の荻田さんが発案、企画をして1997年にErneさんと初めて刊行した会報「交流」も今年で4年、六号めとなりました。そのあいだにHecht1太美子さん、Vogelひろみさんが編集委員として加わり興味深い会報を配布してくれましたが、今回要となった荻田さんが会報作成から退くことになり、4人の新しい編集部員がその仕事を引き継ぐことになりました。

「交流」と言う言葉。よく耳にはしますが会員の皆さんはどういう意味で使っておられるでしょうか。辞書をひいてみると
1. 「違った系統のものが互いに入りまじること、また入りまじらせること(広辞苑)」
2. 「異なる組織、系統に属するもののあいだに人の行き来や交渉がおこなわれること」

(新明解国語辞典)

などとあり、会員の意見を文章で著し、交換する場所としての会報名にぴったりの言葉であることがわかります。「交流」は会員のための会員による会報ですので、自発的な記事の投稿はもちろん歓迎しますし、テーマに関するアンケートや原稿を会員の皆さんにお願いすることもありますので、どうかご協力をおねがいします。今回は会員のRoos牧野泰子さんが「教材としての教科書」について、野嶋篤さんが「ミニコミ誌を作る際に気をつける日本語の表記法」について原稿を書いてくださいました。

ますます充実した会報を目指し、編集員一同、心して作成にあたるつもりでいます。

どうかこれからよろしくお付き合いくださるようお願いいたします。

最後になりましたが、今まで編集に携わってこられた荻田さん、Erneさん、Hecht1さん、Vogelさんに心からのお礼を申し上げます。

教科書との上手な付き合い方とは？

ロース・牧野泰子

「なにか良い教科書がないかしら?」、「どれを見ても帯に短し、襷に長しで、良いのがないわねえ」、「どの教科書がいちばん教えやすい?」。図書係だから教材のことはなんでも知っていると思われたらしく、こんな風に相談を受けることがよくありました。その度に来るだけ助言したりはしましたが、つまるどころ「自分の現場にぴったりの教科書なんて、どこを探してもない」というのが私の結論です。今回、交流の編集部が教科書についてアンケート調査したのも、たぶん、実際に教えていて「良い教科書はなかなか無い」と思っている人が多いからではないでしょうか。各種教科書への評価はアンケート結果を楽しみに見ることにして、参考になるかどうか分かりませんが、私自身の経験を書いてみます。

今から11年前にツークにある学校で日本語を教え始めた時には、その頃いちばん手に入りやすかった "Japanisch fuer Sie" という教科書を使いました。当時の私にとっては良いも悪いもなく、それで授業をしていましたが、困ったのは、その学校が「ビデオを使って生き生きとした授業をする」のを売り物にしていることでした。まだ日本語教材ビデオが簡単に手に入る状況ではありませんでしたから、学校にあった、BBCがどの言語にも合うように作ったパントマイムだけのビデオを仕方なく使ったりしていました。ところが、あいさつの仕方、感情表現などイギリス人の仕草は日本人の礼儀作法とは合いませんし、おもしろくありませんでした。

そこで、私が何をしたかという、自分で授業に必要な場面をいくつか想定し、それに合うような会話を考えて台本を書き、近くに住んでいる日本人や日本語が出来る外国人や生徒たちに呼びかけて役者になってもらい、自分たちでビデオを作ってしまったのです。

自宅をスタジオに見立てて、喫茶店の場面、ビジネスパーティーの場面、夜のバーでの会話、民宿での朝ご飯、バス停での待ち合わせ、瀬戸物屋での買物などなど。家にある物を総動員して小道具を作ったり、家具の配置を変えたり、アパートの中を色々な角度から撮影して場面に変化をつけたりと苦心しました。また、出演者たちはみんな社会人ですから、仕事が終わってからの短時間にその人の出る場面をまとめて撮るといって、面倒なこともありましたが、皆さんが実に協力的で、それは本当にとっても楽しい作業でした。

さっそく出来上がったビデオを授業で使い、生徒の反応が生き生きしてきたのが分かり嬉しくなりました。また、生徒が外国人の話す日本語を聞き取りやすいと言い、日本人の発音が聞き取れないというのも新しい発見でした。この点は10年後にヨーロッパ教師会のシンポジウムで聞いた山田ボビネック頼子先生の「各言語特有の音素が聴解能力を左右する」という理論でなぞが解け、納得しました。

もう一つの例は、6年前から教えているチューリヒの学校での経験です。その校長先生は自分の教授法を確立しており、日本語の構造をスイス人にわかりやすく考案した独自の教材を作って教えて

いました。それと平行して読み教材に、日本で30年近く昔に出版された教科書を使っていました。私はその古い教科書をあまり良いとは思いませんでしたが、特に悪いとも思いませんでした。ところが、実際に教えてみると生徒もあまり喜ばないし、教えるのに使いにくい点が多くありました。例えば、せっかく生徒が漢字を習いたいと意欲を燃やしているのに、全課がかな書きでごく少量の漢字しか出て来ないことや、ドリルに機械的な言い換えが多く退屈なことなどです。しかし、その時点ではその教科書の使用をやめることは出来ない状況でした。

そこで私が何をしたかという、まず、教科書一冊の本文30課を自分のワープロで全部漢字かな交じり文に書き直したのです。その際には常用漢字は必ず使い、それ以外はかな書きにして、生徒が自分で漢字辞典を引いても必ず探せるように配慮しました。それは時間と労力の掛かる大変な仕事でしたが、そのおかげで私自身が常用漢字をもう一度勉強し直すことにも役立ちました。長年にわたって自分は正しいと信じていたのに、間違いだったという漢字の使い方や送り仮名が随分あって驚いたりもしました。

常用漢字は規制ではなくて現在の正しい日本語表記の目安ではありますが、もし、機会があったら教師の会の皆さんもご自身の漢字の知識を見直すことをお勧めします。特に年配者は「えっ、これ違うの!」と思う表記がかなりあります。

その後、日本の出版元と編集責任者の先生に手紙を書き、状況を説明して、教科書を書き換えて使うことに対する許可を取りました。それをせずに勝手に書き換えて、さらにそれを学校で使ったりすれば著作権の侵害になってしまいますから。幸い、その教科書は現在あまり売れておらず、共同執筆者の先生の多くは高齢化しておられ、編集責任者で現在も次々に新しい教科書を出している有名な先生はもう古い物に興味が無いということでしたから、許可されました。

と言うわけで、今もその教科書を使い、退屈だと思ふドリルは部分的に自分で作り直し、本文の内容が古臭いところは関連した話題を写真教材とか実物教材とか衛星中継JSTVのビデオとかインターネットの朝日新聞で拾ったニュースなどを使って補いながら授業をしています。生徒たちがやめなくてコースを続けてくれていることから見ると、この方法は悪くないのだろうと思っています。

以上のことがだれにでも当てはまるとは思いませんし、こんな面倒なことをしなくても比較的使いやすい教科書はあると思いますが、私が手間と暇をかけて得た結論は「自分の教えている現場に合う教科書や教材はある程度自分で作るほかない。でも、その作業はおもしろい」ということです。

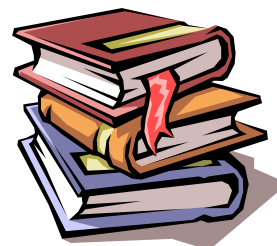
市販の教材を「帯」のように結び方を工夫して使い、きれいな物を作るのもよし、「襷」として使い、腕まくりして自分で苦心して何か作るのもこれまたよし、と言えましょうか。

ただし、気を付けるべきことは、教材全部を自分一人だけで作るのは危険だということです。日本語の構造や文法、表記、運用場面などについて、よほどきちんとした知識を持っている人なら別で

すが、いくら母語話者だからと言って、誰もが正しい日本語を使えるわけではないでしょう。自分が正しいと思い込んでいる言い回しが実は自分の身の回りだけで通用するものだった、ということもあります。ですから、やはり土台にはその道の専門家がきちんとした方針の下に作成した教科書を使わないと、長い目で見た場合、間違った方向に生徒を導く危険性があると思います。

せっかく網の目文庫に多種多様な教科書も教材もあって、大部分は日本語教育の専門家が推薦してくださった「筋の良い」ものがそろっているのですから、なるべく自分の目で見て、自分の状況に合う物を見つけられたら良いのでは、と思います。ということで、最後にまた「網の目文庫」の宣伝をして、拙文を締めくくることにします。

2001年8月末、Chamにて



以下に、2001年3月のセミナー期間中に実施された、教科書についてのアンケート結果を紹介します。フレーデンハーゲン村上淳子さんの回答はそのまゝ、他の回答者については、教科書ごとにまとめたものを掲載しました。

日本語の教科書についてのアンケート結果

"Japanese for Busy People" (使用者9人)

フレーデンハーゲン・村上淳子さんの教科書分析

英語版 Japanese for Busy People Iはローマ字版とかな版があり、IIとIIIは1) 会話文のみが漢字かな混じり、練習部分はかな書きになっている版と2) 会話、練習とも漢字かな混じり版(英語ではKana

Versionと呼ばれている)があります。すべての巻に別冊としてワークブックがついています。

又ドイツ語版 *Japanisch im Sauschritt* Iも2種類あり、1) Standard、これはローマ字版2) *Universitätsausgabe*、これは会話文が漢字かな混じり、練習部分がかな書きになっています。IIA、IIBは英語版のIIを2冊にしたものです。英語版のII Iはまだドイツ語に訳されていません。またドイツ語版の場合、ワークブックもまとめて入っています。

以下に一応この教科書の良い点、悪い点を述べますが、どういう授業環境(年齢、時間数、クラス編成など)でこの教科書を使うのかがある程度規定されないと、この調査の良さが100%活かされてこないのではないのでしょうか。

成人講座(一週間に一回90分、2学期制で年間28回、年齢層は18歳から70歳まで)で使用。Iのみドイツ語版を使用、II,IIIは英語版でワークブックを併用。

良い点

- 学習者の母語であるドイツ語で文法説明、語彙説明などが書かれている。
- Iは必要最低限の文法におさえてあるので、どんな学習者でも何とか一冊終えられる。これが習得できれば日本での旅行が一人でも可能。(これは学習者達の体験談です)
- わたしのように一年に90分授業が28回しかないような成人講座でも、Iは文字も学習しながら2年ちょっとで1冊が終えられる。
- ワークブックIIは豊富なイラストがついており、口頭練習や作文に大いに活用できる。
- II,IIIは会話文のテーマが日常のことからビジネスまで内容が多岐にわたっており、若い層、ビジネスマン、及び日本の何らかの機関と関係している学習者に好評。
- II,IIIの会話文が自然な日本語である。
- 漢字習得の工夫として、II,IIIでは、そのページに一度出てきた漢字には二度目からはふりがなを振らない。
- IIIは特にワークブックが充実しており、これだけを使って文法、語彙、聴解が学習できるので、ワークブックのみを復習教材としても使える。
- 切り口を変えれば自由に膨らませて使える教科書なので、教師の工夫のしがいがある。

悪い点

- IとIIのギャップが結構大きいので、IIに入る前に準備が必要。
- 英語版の場合ワークブックは別冊になっているので、教師はこのワークブックを適所に、適量使わなければ教科書だけでは使いにくい。(ドイツ語版は練習の一部としてワークブックが教科書に入っている)
- II,IIIは会話のテーマがかなりビジネスに傾いているので、主婦には楽しくない教科書。但しワークブックで補完できる。
- II,IIIに使用される語彙が多すぎる。
- IからIII全てに言えることだが、教科書に掲載された読解用教材が少ないので、ワークブックや教師の創作などで補わなければならない。

他の回答者による分析

長所

- 会話・文法・コンテキスト・練習・解説が程よく織り交ぜられており、成人の個人授業と自習の組み合わせに適する。
- 漢字が用いられている。
- 短期間で習得させるのに良い。
- 文字を習いたくない学習者にとって、使い易い。
- 授業時間が短い場合、文法説明とQuizを宿題にし易い。
- 英文和訳の練習問題がある。
- かな文字の後にローマ字で書いてあるので、生徒が自宅で練習し易い。
- 会話が多い。
- 文法の説明が少ない。

短所

- ローマ字表記は、生徒のひらがな・カタカナ・漢字を読む力をつけるのには不適當。
- 日本国内中心型で、わかりにくい面もある。
- 無理に作った文がいくつかある。
- 練習問題に新しい語彙が脈絡なく多出していて、扱いにくい。
- 会話で提出された話題や語彙と、その課の他の部分がばらばら。
- 前課で導入していない文が、いきなり出てくる

- ことがある。
- アメリカ人向きで、「易しさ」を優先している
- ので、教師が付け加える必要がある。
- 習う事項が初めから詳しすぎる。
- 仏語の語彙リストがない。

生徒の分の購入方法

- 凡人社に注文する。
- 教師会に注文する。
- スイスの本屋に注文する。
- 自分の本をコピーする。
- 生徒が自分で購入する。

"Japanisch im Sauseschritt" (使用者7人)

長所

- レッスンごとに日本語・ローマ字表記・ドイツ語が初めて出てくるので、単語の意味がわからなくても、会話のポイントが母語で理解できる。
- 各単語の説明が比較文化的で良い。
- 文法の説明がドイツ語で分かり易く書いてある。
- "Japanese for Busy People"の教師用と合わせれば、中級程度まで使えて良い。
- 絵が面白く、復習に使えて良い。
- 日常会話にすぐ使える。
- 各単元の長さが適当。
- 練習問題が充実している。
- 入手し易い教科書である。
- ビデオが好評だ。
- 新単語の数が多すぎない。

短所

- テキスト・練習問題・文法説明が全部ひとまとめた本になっているので、ぶ厚くて不便だ。
- もっとインターアクティブな授業に使い易いような工夫がほしい。
- 説明的なので、会話・直説法で日本語になじませていくには無理がある。だから、これを基本にして自分で作っていかなければならない。
- 動詞が出てくるのが遅い。
- 第一巻は、長い割には内容が少ない。
- 文字の導入をしても、一巻目はローマ字で書いてあるため、練習にならない。結局、7課から全部自分で書き直している。
- 初めの数課が、あまりにもビジネスマン向きのテーマである。

生徒の分の購入方法

- 学校から一括注文する。
- インターネットの本屋で買う。

「新日本語の基礎 I・II」 (使用者6人)

長所

- 練習問題が多い。
- 会話ビデオ教材が使い易い。
- 漢字が多く用いられている。
- 語彙の説明がある。
- システムチックにできており、文法の説明が分かり易い。
- 語彙訳・文法説明が仏語なので、生徒にとって良い。

短所

- 書く指導(ひらがな・カタカナ・漢字)の体系は、この本で別に作る必要がある。

- 語彙がやや専門的。
- 練習問題は、工夫しないとマンネリになり易い。
- 日本国内用なので、外国では少し使いづらいところがある。
- 学習者にとって完璧ではない。
- シチュエーションが特別（研修生・センターなど）。
- 短文の状況が少し古い。

生徒の分の購入方法

- 個人（教師）が日本に注文。
- 一部はコピーして使用。
- 各自で注文。

「みんなの日本語」 (使用者6人)

長所

- 各単元の量が丁度良い。
- 週一回のレッスンでこなすスピードに合っている。
- 英語・仏語その他の解説書が別冊である。
- 練習問題、練習C用のイラスト集などが別売なので、会話運用の手助けになる。
- 「新日本語の基礎」からの継続性があり、アップデートされている。
- 練習Cの会話が自然で、どんどん膨らませられる。
- 習う事項がはっきりと示されている。
- 絵が多い。
- 平易な表現が多く、口語的で良い。
- 文法が順序立てて出て来る。
- 練習問題が多い。
- 文例が「新日本語の基礎」に比べて一般向けである。

短所

- テープの音声は「新日本語の基礎」に比べて速い。
- 各課のターゲット（文法事項なりコンテキストなり）が明記されていない。
- ひらがなが最初から使われているので、読めない生徒にとっては不便。
- 分厚い。
- 高い。
- 漢字が多すぎて、ふりがなが小さすぎる。
- ドイツ語でないので、文法などの説明に苦労する。
- ぐだけすぎた言い回しが時々目立ち、説明に困る。

生徒の分の購入方法

- 日本帰国時に買って持って来る。
- Amazon.co.jpでスイスから注文。
- 学校から一括注文。
- 各自で注文。

"Intensive Course in Japanese" (使用者2人)

長所

- 各課が長いので大変だが、みっちり勉強する人には良い。
- シラバスの出し方が良い。
- 練習問題が多い。

短所

- 古臭い面がある。
- ひらがなが多いので、漢字学習に向かない。
- 分厚くて重い。

生徒の分の購入方法

- 生徒が個人で購入。

"Japanese for Young People" (使用者1人)

長所

- イメージが多く、直説法でもかなり定着させられる。

短所

- 日本の学校の中の用語が特殊だと思われることがある。

生徒の分の購入方法

- 日本帰国時に買って持って来る。

「現代日本語コースII」 (使用者1人)

長所

- 初級段階で積み上げてきた文法事項を、項目別にもう一度整理してある。
- 口頭表現能力養成が目的の一つとして掲げられている。普段の会話からレポート発表、会議における発言まで、口頭表現のあらゆる形が練習できる。
- 読解・聴解も充実している。

短所

- 名古屋大学によって編集された教科書で、大学生・研究者向けに作ってあるので、会話文に関しては偏りがある。
- 読解用のテキストが会話文に比べてかなり難しい。
- 上級用に近い教科書であるためか、漢字学習にはほとんど考慮が払われていない。

生徒の分の購入方法

- ?

「中級から上級への日本語」 (使用者1人)

長所

- 生きた素材を使いながら読解力・表現力が高められる。
- 各ユニットには豊富なイラスト、資料が添えられており、上記の機能のみならず、ディスカッション・作文にも活用できる。
- 文法・語彙の強化にも留意している。

短所

- 各ユニットのテーマが日本の生活に密着したものが多く、日本に住む予定のない人にはちょっと退屈な部分もある。
- 教科書付きのテープもなく、聴解練習は特に考慮されていない。
- 上級用に近い教科書のためか、漢字学習にはほとんど考慮が払われていない。各単元の新出語彙の漢字の読み方が、各課か巻末にある語彙リストに書いてあるのみである。

生徒の分の購入方法

- 教師の会の一括注文で購入、または日本に個人で注文する。

「文化初級日本語」 (使用者1人)

長所

- イラストが多く、会話の指導に便利。
- 「楽しく聞こう」・「練習帳」などの副教材がよくできている。

短所

- 書く指導（ひらがな・カタカナ・漢字）の体系は、この本以外で別に作る必要がある。

生徒の分の購入方法

- 個人（教師）が日本に注文
- 一部はコピーして使用。

「日本語初歩」 (使用者1人)

長所

- 漢字や文法が系統的に出て来る。
- ケルンで出しているドイツ語の説明書がある。

短所

- 課ごとの本文が長すぎる上、内容が面白くない。

生徒の分の購入方法

- 個人で日本に注文。

「にほんごかんたん」Book

1・2 (使用者1人)

長所

- 中高生を対象にしたテキストである。
- ティーンエイジャー（子供）向けの活動がある。

短所

- 内容が、現代の中高生とはやや異なっている。

生徒の分の購入方法

- 個人で日本に注文。

ベルリン大学のテキスト (使用者1人)

長所

- 初めから動詞が出て来るので、学習者とすぐに会話ができる。

短所

- どの課も同じパターンの学習方式なので、飽きる。
- さっと目を通せば思い出すようにはできていないので、復習がし難い。

生徒の分の購入方法

- 学校から一括注文。

「日本語でどうぞ！」 (使用者1人)

長所

- 直説法がやり易いようにうまく編集されている。
- ドイツに住んでいる日本語教師が編集しているので、非常に分かり易い。説明が全部ドイツ語なので、ドイツ語の苦手な人にも教え易い。
- 文法などのポイントが、母国語で理解できる。
- 日本文化などの説明があり、親切。
- 教師用の指導書がとても親切。
- 問題集が別なので、コピーが取り易く、個人の場合はそれで独学してもらえらる。
- さほど厚くないので、生徒のやる気を失せさせない。
- 値段も余り高くない。

短所

- 早い段階で漢字もカタカナも出て来るので、生徒によっては混乱を招く。
- 一課を100分くらいの対象としてあるが、文字が多いので、2回に分けないと個人授業の場合はきつい。

生徒の分の購入方法

- 個人の場合はこちらの書店で注文、学校の場合は学校が一括注文。

"How to Use Good Japanese" (使用者1人)

長所

- 習うことのテーマが一課に一つなので、それに集中できる。
- 英語でも、文法・単語の説明がある。

短所

- 字が小さく、活字が古い。
- 単語が古い。
- 「が」と「は」の出る来るのが早いため、生徒から質問攻めに会う。
- 練習問題がない。

生徒の分の購入方法

- 学校から一括注文。

光村図書の小学校3年用の国語の教科書 (使用者3人)

長所

- 科学的説明文・物語・民話・作文等、多様な題材がそれぞれの目標と共に提示されている。一つ一つの読み物の質が高い。
- 漢字が限られているので、成人クラスの読み物として使えるものもある。
- 日本の学校の様子が分かる。
- イラストがカラーで沢山ある。
- 読む・書く・話す・聞くの各目的に合った内容が全て一冊に入っている。

短所

- 日本にいる日本の子供用の教科書なので、難しすぎる言葉が入っている。
- 出て来る漢字のバランスが良くない。
- 年齢に合った内容でない場合が多い。

生徒の分の購入方法

- 日本に行く予定のある方に頼む。(児童用日本語教室)
- 兄弟が使っていたものを使ってもらう。(同上)
- 各自が海外子女教育財団からもらうか、学校(日本語補習校)がまとめて給付を受ける。
- 個人で大使館に注文。(M.I.)

言葉は進化する？

前号、「コーヒーブレイク」で取り上げた、最近の言葉使いを今回はさらに発展させ、アンケートも交え改めて「言葉の進化」とは何であるか、会員の皆さんと考えたいと思います。

アンケートは、日本語教師の会会員の他、日本に住む人にも協力してもらいました。回収率は、日本在住の方のほうが高く、全体ではおよそ28%となりました。アンケートにご協力して下さった方々には、この場を借りてお礼を申し上げます。

さて、このアンケートの結果をどのようにまとめようかと悩みましたが、結果だけを出しても、何の事か分からない会員もいらっしゃるであろうと思い、下記のようにまとめてみました。

この頃よく耳にする、「？」と思う日本語

- A) 語尾上げ/語尾を上げ自分に問いかけるような感じで喋る。
- B) あれが一番嫌われていたじゃないですか。私って、ワイン好きじゃないですか。
- C) ってゆうか、... -接頭語として使用-
- D) 私的には... /ボク的には... .
- E) っすね。
- F) 紅茶とか、好き？/映画とか行く？
- G) おタバコのほうは吸われますか？

- H) 10000円からお預かりします。
 I) ぜんぜんオーケー。ぜんぜん平気。
 J) えーとですね. . . .

- <このA) ~ J) のうち耳にした事があるのは>
 A) 85% B) 87% C) 93% D) 80%
 E) 81% F) 78% G) 85% H) 83%
 I) 87% J) 87%

- <意味や使い方は、ご存知ですか？>
 ・ほとんどの方が、意味も使い方も知っていました。
 ・分かりにくかったのは、C) でした。

- <自分でも使いますか？>
 A) 17% B) 23% C) 25% D) 4%
 E) 10% F) 27% G) 12% H) 4%
 I) 34% J) 32% 使わない=23%

- <どこで主に使いますか？>
 日本=56%
 ・親しい友達と。 ・無意識に。 ・会社で。

- スイス=23% (イギリスも含む)
 ・日本人のサークルで。 ・仕事で日本から来た人と話しているとき。 ・親しい友達と。

不明=19%

- <居住国は？>
 日本=40% スイス=49% 不明=11%
 ・日本は、関西、関東が主。スイスは、ベルン、ジュネーブ、ツークなど

- <年代別>
 20代=9% 30代=34% 40代=34%
 50代=13%
 60代=0% それ以上=4% 不明=6%

- <性別>
 女=51% 男=43% 不明=6%

- <職業別>
 会社員=26% 教職=23% 専業主婦=19%
 公務員=9% 自由業=4% その他=19%

<ご自由に御意見をお書きください。>

- ・言葉は生き物なのだから、このような言葉も淘汰され、残る物は残るであろう。
- ・流行なのであるが、文法的におかしい物は使いたくない。
- ・時代の流れであろう。(ら抜き言葉も認められた)
- ・かつてのような一部の人の間での流行ではなくなった。
- ・TVなどのマスコミの影響で、全国的に広がるのが早い。
- ・女子学生が使う男ことばは聞いていて悲しくなる。
- ・“でも” “しかし” “だけど” の全てを、“けど” で済ませる。
- ・大人が会社で「私的には」などと言うのは、許しがたい。
- ・“じゃないですか” は敬語として使っていた. . . .
- ・“語尾上げ喋り” は特に嫌い、不愉快。
- ・度が過ぎると耳ざわりであるが、そうでなければ認められていくのでは？
- ・ぜんぜん+肯定形/ぜんぜんオーケー、全然大丈夫などは、既に容認されているのではないか。

<その他の気になる言葉>

- ・チョー○○○=「あのオヤジ、チョーキモイ」。
- ・キモイ=気持ち悪い事、人など。
- ・～だしいー。=語尾を伸ばして喋る。
- ・私って○○○の人だから. . . .
- ・チャラにする。=御破算にすること。
- ・いまいち=もうちょっと
- ・マジ=もともとは真面目から来たと思われる。真剣、本気など。
- ・マジギレ=本気で頭に来ること。
- ・ムカつく=腹が立つ
- ・～って感じい？=自分の意見を断定するのを避ける時に使う。
- ・イケメン=容姿がいいこと。
- ・ワンギリ=携帯電話を一回鳴らして切ること。
- ・マジで?! =相槌、「ウソッ?！」などと併用される事が多い。
- ・それって. . . . =間投詞?
- ・単語、言葉の最後を伸ばして言う喋り方=「～だしいー」

★注釈は、筆者が付けましたので、もしかしたら、今若者が使っているのとは、違う事もあるかもしれません。

結果から思うことは、スイスに住んでも、日本に住んでも情報は同じくらいの速さで伝わっているのだという事。アンケートからはスイスに住んでいるから、日本語に乱れが少ないとは決して言えないし、日本に住んでいるからこれらの流行り言葉をよく使うとも言えないという事です。そして、方言=地方差が無くなってきたということも言えます。

要するに本人の言葉に対する感覚次第ということでしょうか。日本語を教える者としては、気をつけていないと、無意識に、マスコミで耳にする流行り言葉を使ってしまいそうです。

アンケートの意見の中に多くあったのが、「言葉は生き物だから、移り変わってゆくのは仕方ない」「ら抜き言葉のように認められ、残るものもあるのだろう」という意見でした。確かに、昔は一世を風靡した流行り言葉も、すたれてしまう事が多いでしょう。例えば、今では「イケメン」ですが、昔々は(昭和初期?)「シャン」などと言ったりもしました。これなどは、今は死語です。

言語能力を高く保つには、やはり読書ですが、最近の若者は余り読書をしないとされますね。語彙が少なくなり、(何でも、「カワイー!!」とか「ウソッ!」「ウソッ?」「ウソッ. . .」一つで済ませるとか. . .)表現があいまいになり、他者との関わりを避ける傾向にある最近の若者。美しい日本語はさてどこへ? (多湖ひろみ)

会員から

2001年6月22日の朝日新聞に下記の記事が掲載されました。新会員となり、セミナーや分科会に積極的に参加している野嶋篤さんの紹介です。

地球大通り

伝説的英雄ウィリアム・テルの銅像が立つスイスのアルトドルフで、季刊の日本語ミニコミ誌「グリエッツィ」を発行している。誌名は地域の言葉で「こんにちは」。「ハイジ、時計、マッターホルン。こんなワンパターンのイメージではなく、生活する人が見ている本当のスイスの姿を伝えたい」

この国に住む日本人を主な読者に、無料で約5千部を出す。外交から幼稚園見学記、生活情報のQ&Aまで、多様な記事をA4版10ページ前後に満載。人口約9000人のこの都市で、ただひとりの日本人だ。取材、編集、配送すべてをこなす。「専業主夫だけではおもしろくない」と3年前から発行をし始めた。家計は教師をしている妻プリ

スカさんが支える。料理や洗濯の合間を縫っての取材には、秋に小学校に入る一人息子連れに行くこともある。

30歳まで京都の予備校で事務の仕事をしてきた。「このままでいいのか」と、その歴史が好きなフランスに。知り合ったプリスカさんと日本で6年間暮らし、4年前に妻の実家のアルトドルフに落ち着いた。

発行は広告収入に頼るものの、持ち出しも少ない。「いいことをやっていると思う」と妻は言ってくれるが、「そろそろ職を見つけなくては」。

仕事探しにも奔走している。
(ジュネーブ・小林伸雄)

ミニコミ誌を作る時、どのような点に留意しながら文を組み立てていくのか、日本語の観点から分析していただきました。

「グリェツィ」を作り始めてから、いろんな場面で紙面に使われている「日本語」を巡って、知り合いとのやり取りがあります。

例えば、「いう」という表現一つをとっても、どの場合に「言う」という漢字を使い、どの場合に「いう」というひらがなを使うのか、という問題などでは、教師の会のメンバーの一人から質問と問題提起として出されたことがあります。

さらに、句読点の問題など、なかなか私的なものを書いている段階では気が付かないことなど、編集作業を通して教えられることがあります。

私の手元に『朝日新聞の用語と手びき』という小冊子があります。これは、朝日新聞社が発行しているもので、新聞記者の手びき書という訳ですが、もともと書くことを生業にしていたわけでもない私が、スイスに居を構え、『グリェツィ』を発行し始めてから、一緒に仕事をしてきた日本のパートナーからのプレゼントとしてもらったもので、今は大変重宝をしています。

小説、随筆などの場合、文体や句読点の使用に関しては、多くの場合、書く人自身の自由裁量に任される部分があると思いますが、新聞・雑誌の場合には、かなり細かい規則が存在するようです。それは、国語審議会などの指針に基づき、全国新聞協会が基本的なガイドラインを出して、各新聞社がそれに従う、という形をとっているのでしょう。

具体例を皆さん自身で一度試してみてください。以下、句点の正しい打ち方をしている文章を選んで見て下さい。

質問1：改行の文頭が「（ ” ）などで始まり、段落末が」（ ” ）などで終わる場合

- (あ)
- A. 「君はそう言うが、現実はそう甘くない」
 - B. 「君はそう言うが、現実はそう甘くない。」
 - C. 「君はそう言うが、現実はそう甘くない」。

- (い)
- A. (AP 電によると死者は九人)
 - B. (AP 電によると死者は九人。)
 - C. (AP 電によると死者は九人)。

質問2：行の途中に句点があり、そのすぐ後に「（ ” ）などが続いて、段落末が」（ ” ）となった場合

- A. 医師にすぎりついて、彼女は泣

きながら叫んだ。「子供だけが私の命です。」

- B. 医師にすぎりついて、彼女は泣きながら叫んだ。「子供だけが私の命です」
- C. 医師にすぎりついて、彼女は泣きながら叫んだ。「子供だけが私の命です」。

質問3：その他の場合

- (あ)
- A. 彼は苦笑しながら「いや、まいった、まいった」。
 - B. 彼は苦笑しながら「いや、まいった、まいった。」
 - C. 彼は苦笑しながら「いや、まいった、まいった」
- (い)
- A. いやだけれど仕方がない(とニコリ)。
 - B. いやだけれど仕方がない(とニコリ。)
 - C. いやだけれど仕方がない(とニコリ)

少々長くなり、日本語検定試験を受けているような錯覚をもたれたことと思います。正解は、質問の1と2が、「句点なし」です。そして、質問3は、句点を文末、「」などの後ろに付けるのが、約束事になっています。

しかし、実際の編集作業で、私がこの約束事をきっちり守っているか、というところかなり怪しいところがあります。新聞記者であれば、校正係なりがこれを必ず直すでしょうし、記者自身が注意をするでしょう。そのことを考えると、随分いい加減な編集、校正をしているのだと普段から思っています。

ドイツでも昨年、新正書法が導入され、それをきっかけにそれに反発する動きなどが活発にあるなど、およそ「正書法」と呼ばれる類のものは、もともと「仲裁的」な性格を備えているものなので、「グリェツィ」のような、比較的小規模で個人編集のミニコミ紙などでは、あまりそれにこだわって窮屈になるのもいけないか、と考えてもいます。

ただ、ワープロを使用しての編集作業で時に困るのは、手書きで原稿を書いていたら絶対に間違えるはずのない漢字などが、自動漢字変換で、大変「楽しい」(?)変換をしてくれることです。

「グリェツィ」紙についてアンケートをとった時に恥ずかしい誤植をやってしまいました。

アンケートの末尾に、「...『グリェツィ』までご変そう下さい」とやってしまった。もちろん、「返送」の意味である。読者の中にその部分に下線を引いて、「変そうは、わたしの得意技」という楽しいコメントを下された方がいましたが、冷や汗をかきながらも、つい自分でも笑ってしまいました。

野嶋 篤

新聞から

「ここ数年、政界の異変が続く中で、わが国では“人材不足”が常に話題となってきた。なぜなのか。次々と誕生する首相の軽量化を嘆いて、故江藤淳氏に、そう書き出した一文がある。

題して、「総理の“国語力”」。1995年の「THIS IS 読売」12月号掲載だから、

それから6年に近い。事態は一層深刻化してきた。明治以来の指導者像を振り返り、大切な素養の一つに「教養の基礎を」を江藤氏は見いだした。卓越した指導者を生み出すために、「土壌を養っておかなければならない。荒れ果てた土からは何も出てこない」と。

ここで土壌とは、主に教育の在り方、それも国語教育の重要性を指す。「人間は言語以外によって、世界を把握することはできない」「言語能力が休耕田のままでは、なんら培われるべき素養をつむことができない」。

森首相の「国語力」はどうだったか。どんな本を読んでいたか。各国首脳と会ったとき、硬い話は別に、どんな会話を交わしたか。薄っぺらな言葉ではなく、そこに教養とユーモアが満ちていたかどうか。

そういう素質を与える教育を行っていない、と江藤氏は憂えて記している。「国語、言語能力を中心とする教育を深刻に反省し考え直さないと、今後、どんな指導者が出てくるか、非常に心もとないのではないか」

(3月14日付読売新聞)



新しい市名はひらがなで「さいたま市」

2001年5月1日に埼玉県浦和市・大宮市・与野市の3市が合併して「さいたま市」となることが決まった。大宮市は従来から「大宮市」を主張していたが、最終的には浦和市や与野市の主張する「さいたま市」に落ち着いた。

さて、皆さんは「さいたま市」のように、ひらがなで表記する市が全国にいくつあるかご存知だろうか。すべての市名を答えられる人は、かなりの雑学博士である。

正解は「さいたま市」を入れて6市。

- むつ市 (青森県)
- いわき市 (福島県)
- ひたちなか市 (茨城県)
- つくば市 (茨城県)
- さいたま市 (埼玉県)
- えびの市 (宮崎県)

ひらがな表記は平易で読み手に親しみやすさを感じさせる一方、ひらがなが長続きするとやや読みづらいついという印象もある。個人的には3文字ぐ

らいであれば、ひらがなの市名も違和感がないのだが。(5月22日付アルク社「日本語ニュース」)

コーヒードンで日本語を理解「読んでトクする言葉の素」

平日半額などの商品の低価格化、さまざまな新規商品開拓、積極的な店舗展開やテレビコマーシャル、さらには映画などのメディアミックスと、まさに日本のハンバーガーマーケットを独占する勢いのマクドナルド。5月16日に発表になった高額納税者番付でも社長が堂々の27位に入ると、業績はますます好調のようだ。

そのマクドナルドで一年前から続いている好評企画が、ホットドリンクのカップの底に書いてある「読んでトクする言葉の素」。10種類の日本語について、語源やエピソードなどを交えて解説している。例えば「すっぱぬく」なら、「すっぱ」とは忍者のことであり、「忍者が秘密を抜き出す」から「秘密を暴き出す」の意味になったと、意外な語源を教えてくれる。

他には、「かんろく」「くびったけ」「てぐすね」「とんちんかん」など。コーヒードンでしまった後に、カップの底から文字が出て来て、まさにちょっと「トクした」気分を味わえる。なかなか心憎い小技である。(5月22日付アルク社「日本語ニュース」)

本の紹介

週刊文春に掲載されていた「ニホン語日記」。著者井上ひさしは、日本語に関するテーマを毎回一つ選び出し、独自の視点や論理にもとづいて仮説を展開させ、読者をぐいぐいと日本語分析の世界に導いていく。

「日本語よ、どこへいく」と銘うたれたシリーズの総まとめ、この単行本はユニークな日本語観察記であり、一読をお勧めする。

その著者が「利益のやりとり」の中でこう書いている。少し長くなるが、引用してみよう。

(略)

受益態のこの氾濫、とくに「・・・してくれる」の洪水にはどんな意味がこもっているのだろうかとか考えているうちに、野口英世に宛てた母シカの、あの有名な手紙を思い出した。無筆の母は我が子にある一言が云いたくて、囲炉裏の灰を紙、火箸を筆代わりに、いろはの手習い、そしてついにこう書き綴る。

<<おまいのしせ(出世)には。みなたまけました。わたしもよろこんでをります。 (略) 下かはやく。きてください。かねを。もろたことたれにもきかせません。それをきかせるト。みなままれてしまいます。はやくきてください。はやくきてください。はやくきてください。はやくきてください。 (略) 注：斜字は筆者が加筆>>

受益態の反復が読むものを感動させずにはおかぬのだが、この二人の母はなぜこのように「くれる、くれる」と子に連発するのか。二人とも「あなたに生を授け、そして育て上げた恩=利益を、いま、返すべきである」と絶叫しているかのように、筆者には見えるのだが、これは皮相な見方か。

。そういえば、今年の5月、母の日をひかえてそごうデパートは次のような広告を打った。<<いきいき、をあげる。おいしい、をあげる。ステキ、をあげる。のんびり、をあげる>> (5月2日付朝日)

「くれる」にたいして「あげる」、なんだか話の辻褄があうのである。

日本語文法の研究に大きな手柄のあった国語学者の松下大三郎（1878-1935）は、「受益態には三通りある」といった。

＜社内を案内してくれる（くださる）＞

これは、他人の行動が自分の利益になることを表しているから「他行自利」である。

＜案内してやる（あげます）＞

自分の行動が他人の利益になることを表しているから「自行他利」である。

＜案内してもらおう（いただく）＞

他人の好意による行動を受けて自分が行動し、それが自分の利益になることを表すから、これは「自行自利」である。

では「他行他利」はどう云い表すかという、これがないのだ。他人の行動が他人に利益を与えることは無数にあるのに、それ専用の云い方がない。

。(略)

つまり「他行他利」は話し手や聞き手、ひっくり返して当事者になんの利益も、もたらすことがないので、受益態もまたありえないのである。

。(略)

いずれにもせよ、受益態が身につけている以上は、考え方や行動にまで、恩の貸し借り、利益のやりとりをまずソロバンに置いて・・・となる傾向がわたしたちにはあると思わなければならない。

。(略)

この文章を読んだとき、自分の中で、もやもやした疑問が浮かんで消え、消えては浮かび、どこか居心地の悪いひっかかりが残り、気になった。「このテーマについてもっと考えなければならぬことがあるはずだ」と執拗にせかす“何か”もあって、「これはどうしたものか」と考えるうちに、ようやくはたと気づいた。

一般に親や目上の存在への恩はあたりまえのことで、それをないがしろにするものは“親不孝者”と烙印を押されるのが普通だ。そういう社会の中で書かれた“勇気ある文章”に挑発され、「日本語をもう少し深く考えて、著者に反論しなければ」という危機感をあおられたのだ。

そう気づいた時は「時すでに遅し」。いつのまにか自分なりの日本語分析を始めていた。

現象をとらえて仮説をまとめるのは楽しい作業であり、それが研究のきっかけとなることが多い。テーマに形を与え、自説を発展させ、さまざまな形で裏付けをとるのが研究の過程であるが、著者は一つのテーマに深入りはせず、（ページ制限のためか?!）読者にポーンとテーマをほうり投げたまま章を終わりにする。「後はあなたがた、読者の出番ですよ」とでもいうように....

この「してやられた感」はしかしどこか爽快で心地よく、作者の“やりくち”に感心もしたので、日本語教育に携わる人には是非読んで欲しい一冊としてここにお勧めする。

以下はこのエッセイを読んで考えたことをまとめた私の「利益のやりとり論」である。

会員の皆さんの意見をお聞かせいただきたい。

授受の表現の考察

授受の表現として思い浮かぶのは初級の教科書に出てくる「あげる」「くれる」「もらう」の三語が一般的だろう。

これらの授受の動詞は他の動詞と異なる特徴がある。まず、そこから考えてみよう。

二つの物体のあいだで（一般には有情名詞、例

“人”、行為の受け手として動物、植物も可能）物や所有権が移動する方向はAからB、またはBか

らAで表すことができ、動詞は一つで足りるはずだ。ところがそこに、＜与え手＞の側からみた動作と＜受け手＞の側からみた動作と、話し手の視点に応じて区別をすると二つの動詞が成立する。

ほぼ同じ事柄を違った視点から表現することで対になる二つの言葉が存在する動詞として、「貸す」「借りる」、「売る」「買う」などのいくつかの例があるが、諸外国語では授受表現も二つの動詞で表すことがほとんどである。

それに対して、日本語の授受表現は二つの言葉ではとても間に合わない。

『日本文法小事典』の中で井上和子は、「最も基礎的な授受を意味し、また日常の話し言葉で頻繁に使われる授受動詞」として「くださる」「くれる」「さしあげる」「あげる」「やる」「いただく」「もらう」の七つの動詞をあげている。

本来二種類の言葉で足りるはずの表現が七種類もの言葉になるのは、「与え手、受け手」の視点だけでなく、「目上、目下の関係」と「内と外の概念」という二つの軸を敬意表現として加えたためである。これらの区別は日本語の特色として、また日本語の中でも、授受の動詞の選択肢が多く分かれるという点において、教える側の注意を要する。

また、「～てあげる」「～てやる」「～てくれる」「～てもらう」と補助動詞として使われることにより、特定の行為による恩恵の授受を表現することも日本語独特の文法として注意しなければならない。

「～てあげる・～てくれる」は主語が行う行為が有益であると話し手が考える場合に使い、「～てもらう」は行為の受け手を主語にして恩恵を表すときに使う。これらの表現をあわせて**受益表現**というが、井上ひさしがテーマとする受益態とはこの表現のことである。

言語と社会はさまざまなあり方で互いに影響を及ぼしている。

それについての詳しい研究は社会言語学の分野であり、今ここで証明しなければならないテーマではないので省くが、言語の変化も一つの社会現象である。社会構造を含めた環境や、その社会の価値観が言語に及ぼす影響、またその逆の、言語が社会に及ぼす影響は否定できない。

この観点からいけば「受益態が身につけている以上は、考え方や行動にまで、恩の貸し借り、利益のやりとりをまずソロバンに置いて....となる傾向が私たちにはあると思わなければならない」という著者の主張はある一面、正当である。

日本の習慣である手土産、餞返し、歳暮、中元、また冠婚葬祭における細かいしきたりなどは、形式にのっとった、義務遂行の物品やりとりになりやすい。これは「もらった分だけは必ず返す」という絶対的な“やり・もらい感覚”が影響しているのかもしれないのだ。

しかし、今回授受表現をまとめてはっきりしたことがある。それは、恩恵の意味合いを意識してこの表現を使う日本人は案外少ないということである。

これはまず、正しい表現を素早く的確に選択して使えるのが母語話者の特権であり、「この文は恩恵的な意味があるので、～てくれる、と表現しなければならぬ」などと分析する必要が無いから、言葉の意味を深く考えて話すことがないから、という理由が考えられる。それに加えて、これらの補助動詞は、方向性を明示するためにも欠かせない表現になっているため、恩恵の意味をとりたてて意識することをしなくなったことも一つの要因であると思う。

言葉は何らかの形で社会に影響を及ぼす。それは無意識に使われる表現でも同じである。その意味で、授受表現が日本人に及ぼす影響が大きいとする著者の意見には同意する。

だからといって、「特別な授受表現を作り上げ、それを多用する日本人だから、利益のやりとりをするさい」とするのは短絡的な見方だ。

「してもらった人にはして返す」という行為の“やり・もらい感覚”は、そのよしあしは別として、ほぼどこの国にもみられる道徳観であると思う。

ただ、現在の日本は縦型社会の一角が崩れ、平等思想が広まり、「内と外」の概念もあいまいになってきている。そうした社会の変化につれて言葉も大きく変化しており、授受表現に「やる」「～てやる」を使用しない若い世代が増えている。他人や社会とのつながりを重視せず、機械をとおして社会との接触を実現させる人々が増えてきた現在、「おかげさま」の観念は育ちにくいし、だからこそ「もちつもたれつ」の人生観を重たく、大げさに感じる人々がでてきても不思議ではない。

著者が受益表現の氾濫をうるさく感じたのは、個人主義による日本人の意識の変化の表れと推察することもできるのだ。

「誰が誰に何をどのように感謝しているかを正

確に表現しなければわかりあえない」とする、会話による技術が発達した文化と、「相手の考えを忖度しながら、適度な距離をおいたそのうえで、ある程度分かり合おう」とする文化の違いは大きい。

「すべてを言わなくても分かり合える内の世界」を支える要素は言葉だけではない。多岐にわたるテーマではあるが、「おかげさま」に代表される恩恵表現を日常表現にさりげなくとり入れることができる受益表現は、日本人の「内の意識」を支えてきた表現の一つであったとわたしは考える。言葉の中に、こうした微妙な表現があったからこそ、それが潤滑油となって「内の世界」が保たれてきたのだという仮説である。

しかし、これについてはより深く考察する必要がある。とりあえずここでは問題提起にとどめ、会員の皆さんの意見をお聞かせいただけたらと思う。

(K.M.)

会員のNussioさんからのお知らせです。

新刊書ご案内

『わかるスイスの年金制度』 (日本語解説版 スイス日本ライフスタイル研究会編)

スイスの年金制度をわかりやすく日本語で説明したハンドブックが出版されました。皆さんはいつから、どの位、年金を受け取れるか御存知でしょうか？ 万一、未亡人になったら、障害者になったら、年金から十分な補償が出るのでしょうか？ 今、どのくらいの年金を掛けていますか？ ゆとりある老後過ごすためには、定年間際になってからではなく、今から正しい情報を集め計画を立てていくことが必要です。是非この機会に、年金制度について一読してみてください。

内容： 第一部： 第一の柱 AHV/AVS 第二部： 第二の柱 企業年金
第三部： 第三の柱 個人の任意貯蓄
(A4 100ページ、ドイツ語・フランス語用語解説付き)

価格： 一冊 42 スイスフラン (+ 送料)

注文先： Yumiko Ganarin, Weierhofgasse 20, 9500 Wil

Fax: 071/ 911 0683 Email: translation.gan@spectraweb.ch

次回のテーマに関するお願い

語学を学ぶにあたっては、人それぞれ自分に合った独自の学習法を確立することが多いですね。ですから、「学習者により効果的な授業法」を探るための研究が盛んです。

聴解タイプ、視覚タイプ、会話タイプ、動作タイプなど五感の機能に分けて生徒をグループ分けして練習させる方法などはその例ですが、小グループや個人授業においても、生徒の得意な学習法を知っておくことは学習動機や楽しみを伸ばすための大切な参考資料になります。五感に響く変化に富んだ授業は、いろいろな面で重要であり、それを常に頭のすみにおいて授業を進めることは大切なことです。

その上、生徒がどのように学習したいのか、どのような学習法だと効率的に学べるのかを知ることは、教師の側から、より良い授業の“質”を高めることにもつながります。

そこで、今回の「交流」のアンケートでは、学習者がどのように日本語を習ってきたか、効果的な学習法は何かなど、学習軌跡をたどる質問を、先生方にインタビューをしてもらおう計画を立てています。

今回のセミナーのときに会員の皆さんにアンケート用紙をお配りします。充実した調査結果をまとめることができるように、どうか一人でも多くの先生方が（ひいては学習者の方が）協力をしてくださいますよう、編集者一同、心からお願い申し上げます。

さて、次の記事は、二人の現役学習者をお願いしたインタビューです。教師が口語で質問する形式で行いました。興味深い学習方法ですね。皆さんの学習者の場合はいかがですか。次の「交流」のアンケート結果をどうか楽しみにしててください。

日本語学習者へのインタビュー

1. スイス人・男性・50歳・小学校教師

- ①日本語を学び始めたきっかけ
子供の頃から日本に興味があって、行ってみたかった。文通をしていた日本人の友達（中学校教師）から招待を受け、日本へ行った。
- ②日本語の学習歴
チューリッヒで半年間（週1回）日本語を勉強した後、1年間日本へ行った。その後、20年間以上勉強していなかったが、1年程前から勉強を再開した（週1回）。現在のレベルは上級だが、中級のクラスにいる。（上級クラスがないため）
- ③何のために日本語を勉強しているのか。
日本の生活や日本の心を知りたいし、新聞も読めるようになりたい。また、日本人の考え方を知りたい。
- ④どのように日本語を習得したか。
日本人の友達が勤務する中学校に1年間通って国語の先生に文法などを習った。自分でも毎日5時間位書く練習をして、漢字も1000字以上覚えたが、今は半分ぐらいしか残っていない。

- ②日本語の学習歴
南アフリカで半年間（週三回）日本語を勉強し、日本に行く前の一ヶ月間は集中講座を受けてから渡日。
日本滞在4年間は、毎朝一時間と土曜日三時間の授業を受けていた。現在のレベルは上級。日本語能力試験2級合格。
- ③何のために日本語を勉強しているのか。
日本で生活していたときは、仕事のため。英語でことは足りたが、会議の進行を日本語で理解し説明ができて、合弁会社の経営陣と日本語で話せることなど
日本語で経営することの利点は大きかったので、学習を続けた。スイスでは、日本語を話す機会が週に二度しかないため、レベルを維持するために続けている。
- ④どのように日本語を習得したか。
読み書き能力を向上させるために、会議の議事録や会

社の記録を、授業の資料として教師に渡し、会社経営

に必要な語彙を徹底的に学習した。会議の時に日本語

で理解し、話せるようになることと、会社を日本語で

経営できるようになることを目標に、会話能力向上に

は特に重点をおいて授業が進められた。ニーズに合った学習方法だった。（F.M. & K.M.）

2. スイス人・男性・51歳・化学製品グループ

社長

- ①日本語を学び始めたきっかけ
そのとき勤めていた会社の要請で、発展途上国と経

済大国の国をそれぞれ一つずつ選んで赴任しなければならなかった

ので、南アフリカと日本に赴任することになった時点で日本語を習い始めた。

編集後記

1998年3月のセミナーで当時編集係そして役員のエルネさんより「ねー、たみちゃん」と声をかけられました。「セミナー後、飲みにいかない？」というお誘いかと思った…が実は編集係への誘引でした。（最近ローズさんからも声がかかり、一括図書のお手伝いの話がありました。皆さん、役員から声がかかった時は身構えましょう）。その時は何も考えず引き受けてしまいましたが、その頃の私は日本語タイプライターしか持ってなく、編集とは程遠い仕事をしていました。その後PCを導入し、原稿打ちこみ作業や切り貼り作業と、出来あがるまでの過程を一通りやらせてもらいました。病気の精神的落ち込み等を克服しながら、荻田さんとVogelさんに励まされて交流5号までの発行に携われて、とても良かったと思っています。荻田さん、Vogelさん、一緒に仕事できて楽しかったです、

ありがとうございました。6号からは新しい系の元で編集され、発行されます。正直なところ、肩の荷が降りてホッとしています。新編集系の皆さん、よろしくお願いします。

Hechtl—松見太美子

前回の5号の会報を最後に、編集を交代することになりました。振りかえると編集の仕事の何たるかも分からずに、よくもまあ引き受けたものだと思います。ただ文を書けばいいのかな？なんて甘かった. . .。でもおかげで、パソコンの使い方は勉強できました。Wordにも習熟しました。荻田さんという大先輩のおかげで、言葉に関してもいい勉強をしました。私にはプラスの面が多かったこの仕事、新しい編集の方々にバトンタッチします。頑張ってください。
H. 多湖

1997年末、コピー機の拡大、縮小機能と糊と鉄をフルに回転させ、まさに継ぎはぎだらけの会報『交流』

一号が誕生しました。当時の役員のエルネさんと二人だけの出発に、第二号からは多湖さんとヘヒテルさんが加わり、エルネさんが退いたあとは三人で五号まで出すことができました。会員の交流に少しでも役立てることができたらと願って名付けたこの『交流』、時とともに会員の交流の手段のひとつとして機能し始めたと感じています。

第四号からは、国際交流基金日本語国際センター図書館に、資料として保存してもらえることになり、この『交流』は私達会員間の交流のみならず、日本語教育に取り組む、あらゆる分野の日本語教師の交流の輪にも仲間入りさせてもらえたのではないのでしょうか。

私の『交流』上の出番も今回で済みです。会員の皆さん、そしてこの『交流』を読んで下さった皆さん、本当に有難うございました。これからも『交流』が新しい編集部のもとで、交流の手段としてその役目を果たしてくれたらと願いつつ筆を置きます。

荻田憲子



Brun-Tsuruga Kazuko	Herrenweg 7, 8303 Bassersdorf
Tel: 01/837 0224	Fax: 01/8370218 E-Mail:kazuko.brun@bluewin.ch
Fritschi-Hasegawa Masako	Feldmattenweg 2, 5722 Gränichen
Tel: 062/842 6605	Fax: 062/842 6605 E-Mail:ursfri@bluewin.ch
Kaiser-Aoki Mutsuko	Unterdorfstrasse 28, 6033 Buchrain
Tel: 041/440 2642	Fax: 041/440 2642 E-Mail:kaiseraoki@bluewin.ch
Mosimann-Nakanishi Ikuko	Stadacherstrasse 51, 8320 Fehraltorf
Tel: 01/955 0094	Fax: 01/995 6135 E-Mail:mosimann@asiaintensiv.ch